ありば ヒューマンドキュメント

ものを作り出す

人と技の素晴らしさ

国際アビリンピックに参加して

[畠中（はたなか） キミ子（きみこ）さん]

鹿児島県からのたった一人の国際アビリンピック代表

平成19年11月、静岡市で開催された第7回国際アビリンピックの日本代表72名のうち、鹿児島県から選出されたのは、洋裁ー婦人服（応用）競技に出場した畠中キミ子さんおひとり。

国際アビリンピックでは、平成12年の第5回チェコ大会の政岡ミサさん（いちき串木野市）、平成15年の第6回インド大会の磯脇米子さん（鹿児島市）に続いて、洋裁で鹿児島県から3大会連続出場となった。洋裁は鹿児島の得意種目なのだろうか。畠中さんにそのアビリンピック体験をうかがった。

「洋裁で3大会連続というのは、鹿児島障害者職業能力開発校でのご指導のおかげです。政岡さん、磯脇さんやわたしは、みんな自営。国際アビリンピックの出場者は、企業に所属している方が多くて、私たちのような自営は珍しいほうですね」

「国際大会は初めて。中国や韓国の選手の方は、命懸けというのか、目の色が違いました。雰囲気に飲まれたんですかね。半袖ブラウス一枚を6時間で仕上げるのですが、細かいミスがあって、香川の全国大会で優勝したときとは、雰囲気から違いました。今思えば、平常心でいられなかったのがほんとうにくやしい。でも、それが今の実力なんだと思います。」

もうちょっと上を見よう

「国際大会に参加してよかったと思うのは、あの雰囲気を味わったことです。ちょっと口で言えない感じですね。反省点はいっぱいありますけど、もうちょっと上を見よう、腕を上げないといけないのかなとか思いました。参加者は障害があっても一所懸命やっておられる方ばかりです。私なんか足が悪いだけで、手仕事というのはほとんどハンデなくできるわけです。競技に参加されている方で手の不自由な方もおられて、それに応じた道具を持って参加されていました。私なんか曲がりなりに、まあ足は曲がりませんけど、歩くのも不自由ながらもひとりでできますし、自分の甘さを感じました。」

畠中キミ子

紳士服・婦人服仕立て直し補正　はたなか

〒899-2705 鹿児島市直木町4517-3

TEL 099(278)4371

「小学校に入る直前、大やけどで身体が不自由になりました。母が手に職を持てるようにと、中学校卒業後、洋裁学校にいかしてもらい、それから鹿児島身体障害者職業訓練校（鹿児島障害者職業能力開発校の旧称）の洋服科にも通いました。山形屋の縫製工場に勤めたあと、二十五、六年前に独立。仕事もそれなりにあったんですけど、最近中国製の安い衣類が出回るようになった影響か、仕事がだんだん少なくなってきました。これはなんとかしないといけないと、職業能力開発校のアパレル科に再入校して、平成18年の4月から一年間通いました。技術を高めることができてよかったし、国際アビリンピックまで行くこともできました。先生から『技術は盗めない』といわれたことが心に残っています。しっかり覚えて、技術を自分の身につける。そうできたらいいですね。」

どうせやるなら一所懸命やりたい

「訓練校や職業能力開発校に行ってよかったことに、障害者のお友達ができたことがあります。私はふつうの学校に行っていたので、障害者のお友達がいなかったんですよ。行ってみると、ああ自分の障害は軽いというのがしみじみ分かって。それに、みんなすごい行動派ですね。昔はあんまり人が好きじゃなかったんですけど、お友達のおかげで世間が広がりました。」

「バリアフリーということで気になるのは、障害のある人が外で働こうということになったら、仕事がそんなにないんですね。職業能力開発校を出ても受け入れてもらえるところが少ない。募集自体がこないですね。仕事のバリアというのが障害者にはいちばん問題かなと思います。」

「お友達もリフォームとかもいっぱいしたらいいよと言ってくれます。新しい依頼も何件か来ていますし、大島紬を使った男物の作務衣とかも作りはじめました。やっぱり方向転換しないといけないかなと思いますね。中学校のときの先生の言葉なんですが、『どうせやるなら、一所懸命やりなさい』そう自分に言い聞かせています。」

畠中さん手製の女性用スーツ。細かいところまで神経の行き届いた縫製です。平成19年度鹿児島県障害者保健福祉大会にてご本人が県知事から表彰された際に着用していたものです。

平成18年の第29回全国障害者技能競技大会（香川県高松市）洋裁部門で優勝（厚生労働大臣賞・金賞）

ズボンのウェストだと10センチぐらいは余裕で補正できますし、直す方も多いですよ。

国際アビリンピック

国際アビリンピックは、1981年の国際障害者年に、障害者の職業的自立の喚起、企業や一般の理解、国際親善を目的として始まった障害者の技能五輪大会。1981年に第1回大会が東京で開催。2007年11月静岡で技能五輪国際大会と同時開催。第8回国際アビリンピックは、2011年に韓国（ソウル）で開催予定。

アビリンピックについて　http://www.jeed.or.jp/activity/activity01.html#sec02

鹿児島障害者職業能力開発校

畠中さんも通った鹿児島障害者職業能力開発校は、障害者の就業に役立つ知識、技能を習得する職業訓練指導をする施設です。

〒895-1402 鹿児島県薩摩川内市入来町浦之名1432

電話番号：0996(44)2206　FAX番号：0996(44)2207

ホームページ　http://www12.synapse.ne.jp/kagoshou/index.htm

ARIBA tsushin

ありば通心

身体障害者の
就労支援を行うNPO法人 **愛・あいネット**

「自立のためには努力が必要。私たちの役目はそれを後押しすることです」

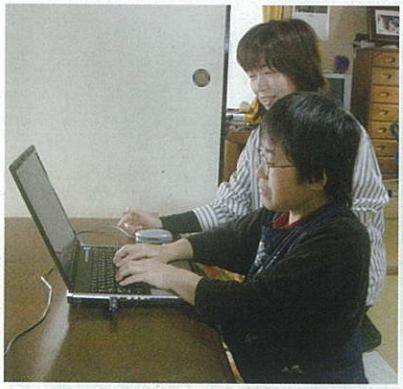
まずは大隅で就労支援の成功事例を作る

平成13年に鹿児島県鹿屋市で設立したNPO法人愛・あいネットは、身体障害者就労支援と重度心身障害児支援の活動を中心に福祉支援を行っている。

就労支援活動はパソコンを使う仕事に就き自立を目指す障害者を対象に、名刺や図面、ホームページの制作などの実際の業務を訓練として行い、実践的なパソコン技術の習得やビジネスマナーの習得を目指す。

理事長・柳井谷昭平さんは、「障害者が働いて自立できる社会作りは、私たちの活動目標の一つ。まずはこの大隅地区で成功事例を作り、それを広めていけたらと考えています。社会の受け入れ体制を整えることも大事ですが、障害者自身が努力して能力を伸ばすことも欠かせないことだと思います」と話した。

脳性小児マヒによる障害を持つ徳満啓子さん(49)は、「平成18年4月から1年間、障害者職業能力開発校でCADを勉強した後、平成19年4月から愛・あいネットに訓練生として通い始めました。現在は、社員としてさまざまな仕事を任され、現場で多くのことを学んでいます。パソコンの技術はまだまだ勉強中ですが、得意な文章を書くことを活かして楽しく働いています」と話した。


パソコンボランティア派遣の様子

愛・あいネットの皆さん
後列中央が理事長の柳井谷　昭平さん
前列中央が徳満　啓子さん

愛・あいネット外観

パソコンボランティア養成
講習会の様子

ITを使った社会参加と自立を目指して

愛・あいネットでは、平成19年10月より「障がい者ITサポートセンター」を本格的に始動させた。鹿児島県から委託を受け、障害者のパソコン利用に関する相談や情報提供、パソコンボランティア養成・派遣事業の促進を行い、情報通信の利用を総合的にサポートする。

柳井谷理事長は、「障害者がパソコンの使用に関して相談できる場所や人材がいないという課題を解決し、障害者の自立と社会参加を促進させることを目的に開設されました。このセンターを通して、パソコンを利用する障害者が増え、より多くの人がインターネットやメールで自由に情報を交換し、楽しさや生きがいを見つけたり、自立を実現させたりするお手伝いができればと思っています。特にIT技術を習得して在宅就労を目指す方への技術習得のサポートは、これまでの就労支援の経験を活かしながら、企業や市町村への働きかけも行い、実際に障害者が働ける環境作りにも積極的に取り組んでいます。建物や施設の整備は年々進んでいますが、バリアフリーに一番大切なのは、人と人とのコミュニケーション。障害者にとってもパソコンがコミュニケーションツールの一つとなるよう、さまざまな形でサポートをしていきます」と話した。

NPO法人　愛・あいネットホームページ　http://www.aiainet.or.jp/
鹿児島県障がい者ITサポートセンターホームページ　http://www.aiainet.or.jp/itsupport/
徳満さんのブログ「障がい？そいがないよー！」　http://aiainet.synapse-blog.jp/aiainet/